

各部会での平成30年度検討報告並びに平成31年度の検討テーマ一覧

部会	H30年度検討内容			H31年度 検討内容		
	H30年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
病院部会	緊急時の受け入れ(継続)	<p>【検討内容】 多職種ワークショップを病院で開催することにより、病院スタッフと在宅スタッフの連携ができ、病院としての役割を話す機会となっている。 9月の地域ケア推進会議の中でも病棟の機能について説明させていただいた。</p> <p>【結果・方向性】 多職種ワークショップ研修会は102名の参加があった。毎年ではあるが、病院の役割を理解していただくことと病院職員と在宅スタッフが意見交換する場を作ることを目的に研修会等を通して地域に啓発していく。</p>		緊急時の受け入れ(継続)	限られた病床の中で病院が受けるべき緊急時について継続で検討していく	
医師会部会	在宅医療の充実に向けて	<p>【検討内容】 市内の開業医は、基本的に常勤1人に対応している診療所が多い。在宅医療の充実に向けて取り組むに当たり、開業医の立場から考えると特に看取り対応などを24時間365日1人のみで対応するというのは限界があり、それが取り組む上でもネックになっている。 学会等で不在にする間に在宅で看取りが迫った際に、代わりに看取りを行ってくれる医師を手配できるようなバックアップ体制があると良い。</p> <p>【結果・方向性】 医師会内で在宅医療に取り組んでいる医師の有志で、ワーキンググループを立ち上げ、在宅看取りにおけるバックアップ体制の仕組み作りについて、検討していくこととなった。 H31年3月に第1回のワーキンググループを開催予定。</p>	会議 1回 参加人数 延べ 15人	在宅医療の充実に向けて	引き続きこのテーマに取り組む必要があると考えるため。	
歯科医師会部会	他部会との連携について	<p>【検討内容】様式(訪問歯科診療申込書:問診表)の統一化 リーフレットの配布について</p> <p>【結果・方向性など】 統一した様式を用いた訪問診療の申し込みがある。 歯科医師会のリーフレットを市内介護保険事業所に配布した。 歯科医師会のホームページに訪問歯科診療受診の流れを掲載した。 引き続き検討していきます</p>	会議 10回 参加人数 延べ100人	各部会との連携について	連携のためのツールが現在無いため、介護職が患者の状態を的確に歯科医師に伝達しやすいツールを検討する。	未定
薬剤師部会	多職種連携	<p>【検討内容】 薬剤師会から在宅医療を推進する責任者を招聘し在宅で薬剤師ができることをテーマに研修会を行った。その後、顔の見える関係づくりを目的に地区別にグループをつくり、地域の薬剤師とケアマネ、訪問看護師等の多職種とグループディスカッションを行った。</p> <p>【結果・方向性】 研修会は1回のみであったが、薬剤師部会から26人、他職種の皆様から25名の参加があった。後半の地域毎のグループディスカッションでは盛んに意見交換が交わされ、顔の見える関係作りの一歩となった。 今後もこのような機会を設け関係を築いてゆきたい。</p>	会議(研修会) 1回 参加人数 51人	麻薬について	麻薬、特に在宅での知識について他部会からも知りたいという要望もあります。疼痛管理は在宅で(最期まで)療養をする場合にとても大切なことであり、知識の共有を図りたい。	

部会	H30年度検討内容			H31年度 検討内容		
	H30年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
訪問看護ネットワーク部会	ケアマネジャーとの相互理解を深める	<p>【検討内容】</p> <p>①訪看依頼のタイミングとサービス調整について ②「退院カンファレンス」や「サービス担当者会議」での情報共有について</p> <p>【結果・方向性】</p> <p>研修アンケートの結果参照 ・どのグループのケアマネからも訪問看護の導入の時期がわからない、との発言が多数あり、訪看からは相談してほしいと返答した。 ・各グループ事例を挙げての検討がされ、ほぼ高評価だった。 ・引き続き次年度も研修の機会を作って欲しいとの意見を得た。</p>	<p>会議 1回 参加人数 70人 (訪問看護部会 32名、ケアマネット部会 38名)</p>	ケアマネジャーとの相互理解、連携を深める	<p>昨年度の研修会を通して、顔の見える関係作りや連携における疑問点について話し合うことができた。しかし、医療保険対象の事例でのケアマネとの関わりなどは、まだ十分に連携しているとは言えない状況であり、事例検討会や勉強会を通じて相互理解、連携を深める必要性があると考えた為。</p>	<p>医師会部会 ケアマネット部会</p>
リハビリネット部会	リハビリテーション専門職の多様性と可能性	<p>【検討内容】</p> <p>・地域包括ケアシステムにおいて、リハビリテーション専門職が求められている事を知り、地域ケア会議で必要とされる個々のスキルアップと多職種との連携強化を図る為、藤田 医科大学地域包括ケア中核センターの都築晃先生を講師にお招きし、『自立支援を目的としたリハビリテーションの視点を学ぶ ～地域ケア会議に呼ばれたとき、お役にたてる 療法士を目指して～』と題した研修会を実施した。</p> <p>【結果・方向性】</p> <p>・研修会は参加人数111名の内、61名がケアマネジャー、社会福祉士、生活支援コーディネーター等の療法士以外の職種となっており、多職種連携強化の一部になったと思われる。 ・研修会の中で行なわれた、ミニ模擬会議は好評であり、今後の地域ケア会議での発言に活かせる内容であったと考える。また、アンケート結果では肯定的な意見が多く見られ、地域 ケア会議の理解が深まったように思われる。 ・自立支援・多職種連携をより強化していく為にも、次年度も継続して検討していく必要がある。</p>	<p>会議 5回 参加人数 延べ30人</p>	自立支援の核心に多職種で迫る～生活機能向上連携加算を引き合いに～	<p>高齢社会が進む中で自立支援に向けた取り組みが重要であると考え。平成30年度の介護報酬改定の中で新設された生活機能向上連携加算もその取り組みの一つであると思われるが、現状機能していない。地域包括ケアシステムを理解し、生活機能向上連携加算について各職種で解釈する場を持ち、今後安城市での自立支援の取り組みにつなげるため。</p>	<p>ケアマネ部会 デイネット部会 ヘルパーネット部会 保健福祉部会 小規模多機能部会</p>
ケアマネット部会	医療機関との連携シートについて	<p>【検討内容】平成30年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定があり、医療と介護の連携強化が求められている。 ケアマネット部会は、平成28年連絡票の様式案を作成したが活用が出来ておらず、今回の改定で入退院情報提供書見直す必要があった。情報提供のあり方を見直した。5月地域ケア推進会議に議題を提起し、医師との連絡票について、医師会より情報提供時の診療情報算定の意見が有り、医師会病院部会には、安城市在宅医療サポートセンターが関わり診療情報提供料(Ⅰ)算定様式作成。 入院時情報提供書のFAX書類確認の方法を病院関係者と検討。 関係機関と調整を行い8月の地域ケア推進会議で報告、サルビー見守りネットポータルサイトに掲載の承認を得た。運用について、在宅医療サポートセンター、医療機関に報告し送信先の確認と最終調整を行い運用開始の了承を得た。9月ケアマネット定例会で運用説明をした。</p> <p>【結果・方向性等】</p> <p>安城市地域ケア推進会議に検討課題として、提起した事で、医療機関との連携シートの作成、運用開始が出来た。 病院に入院時情報提供書送付時、医療介護との連携連絡票を添付。 退院・退所時情報記録書。 連絡票(ケアマネ⇄医師・歯科医師・薬剤師)(医療系サービス) 軽度者に係る福祉用具貸与の例外給付について 安城更生病院地域連携バス会議や在宅医療・介護連携推進のための多職種ワークショップ研修会「多職種協働の障壁を低くするために」講演「ケアマネジャーの役割 医療との連携の中で」医療機関との連携シートについて説明を行い周知に努めた。 市内で統一した連携手段として、活用していくことは、入退院支援、日常の療養支援を行う医療、介護関係者と情報共有を今後も図りたい。</p>	<p>会議 ・ケアマネット2回 ・病院関係者、サポートセンター2回 参加人数 延べ155人</p>	医療機関等との連携について	<p>平成30年度に、医療機関との連携シートについて様式の運用の統一が図れましたが、医療機関との連携を、困難に感じている面もある。 ・入退院や日常的な医療・介護の連携は、地域で生活している利用者、家族を支援していくうえで、重要と考えられる。作成した連携シートの活用状況や、医療的な意見を支援に反映出来るように検討していきたい。</p>	<p>病院部会、医師会部会</p>

部会	H30年度検討内容			H31年度 検討内容		
	H30年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
小規模多機能部会	地域包括ケアシステムにおける小規模多機能型居宅介護の役割 (・小規模多機能ホーム部会のたちあげ ・各施設の現状共有)	【検討内容】 ・小規模多機能ホーム部会 各月 奇数月に実施 ・各施設の運営報告 ・各施設の問題点検討、把握 ・共有すべき情報のやりとり ・福祉まつり 参加等 【結果・方向性】・無事たちあげでき、活動が行えた ・各施設同士、連携が行えている（困った時にお互い連絡をとり、相談できている） ・協力することのすりあわせができた（福祉まつり等への参加、役割分担等）	会議 6回 参加人数延べ24名	小規模多機能ホームの役割 ” の活用方法について 各施設の特徴をお互いに理解する	だいた小規模多機能ホームという名前は知られるところとなったが、まだまだ役割や活用方法がわかりにくく、サービスを検討する際、もっと早く知っていたらとか、よくわからなかったからという話を後から聞くことがある。 部会が立ち上がって1年。 引き続き研修企画にも同様の内容で、外部に伝えていくと共に、お互いの施設を理解することで、連携にも役立てていけるよう検討していく。	
デイネット部会	地域・事業者間の連携について ②介護人材確保の取組(職場環境改善に対する取組み)	【検討内容】 ○平成30年度の介護保険改正にて、事業所間連携での加算「生活上連携加算」が創設されました。(通所介護事業所にて、配置が難しいリハビリ専門職を外部事業所の専門職との連携にて、加算が算定できる内容。) ・加算に係る、体制を確認。 ・事業所間でグループワークを実施しました。 ○地域との連携 ・主催する研修会にて、地域と事業所の連携の必要性を再度確認しました。 【結果・方向性】 ○事業所間連携について 事業所及び専門職は、それぞれで加算算定をして連携したい思いはあるものの、具体的な方法(契約料や、対応方法など)を検討できるまでには至らなかった。 ○地域と事業所としての連携に関しては、計3年検討してきたので、一旦休止とし、事業所間連携をテーマに今後検討を進める。	会議 1回 参加人数 延べ24人	「サルビー見守りネット」を通じて事業所間連携を強める	安城市で整備されている「サルビー見守りネット」を有効に活用し、さらなる事業所間連携を強める デイネット部会のグループを作り、 ・部会の連絡 ・議事録 ・アンケート調査 ・悩み事の共有など いつでも気軽に連絡が取れる体制を構築する	左記を検討されている部会
ヘルパーネット部会	法改正に伴うこれからの訪問系サービスについて	【検討内容】 軽度生活支援サービスを生活サポーターで担うことで訪問介護の人材不足と身体介護の必要な方への受け皿を広めることを目的に安城市主催のもとマッチング交流会を行い、雇用に繋げる為の場を設けた。しかし、具体的な雇用に至らなかった為、どのような連携を図ることで地域の元気な方や講習を受けたサポーターが活躍できる機会を設けることができるのかをテーマに研修会を開催。 【結果・方向性】 実際の講師により、取得を得たサポーターがどのような目的や心構えで受けられていたか等向うこともでき、受け入れ側もまた、体制づくりや育成能力を高めていくことが必要であることを改めて認識した。 取得された生活サポーターの受け皿を広めることや市民への認知度の低さも引き続き課題となった。 開始されたマッチング交流会の継続と訪問介護以外でも活躍できる場を広げていく必要性や制度作りが必要である。	会議 6回 参加人数 延べ 21人 マッチング交流会 参加事業所 5事業所 研修参加者 40名	在宅看取りに関わる訪問介護ができることを学ぶ。	今後、在宅での看取りが多くなることで関わる訪問介護員の知識の向上や、医療・福祉機関との連携がより必要になってくる。 訪問介護にできることは何かを追究し、ご本人様やご家族様への精神面でのサポート法を学び、意志や希望に添った支援が望まれると考えるため。	すべての部会
施設部会	(当初)施設での看取り(特養・老健)について ⇒(変更)部会内施設の情報共有・連携強化	【検討内容】 看取りについては、今年度あまり会議内では検討が行えなかった。 その代わり本年度は、当初の検討テーマではなく、部会内での施設業務全般に関する情報交換や連携強化を1年通じてを図ってきた。 その中で、介護人材確保についての課題が共通したものであったため、「地域包括ケア市民フォーラム」で介護の仕事紹介ブースの出展を企画するほか、「外国人雇用について」の研修会を開催するなど、人材確保に関する検討を実施してきた。 また、部会会議内で、人材育成や施設運営全般の情報交換を行ったり、各職種ごとの交流会として相談員の情報交換会も開催した。 【結果・方向性】 各施設共通の課題に関して、部会内で連携して検討することができ、施設間の連携促進を図ることができた。 このテーマについては次年度も継続し連携強化を図っていきたいと考えている。	会議: 6回 参加人数 延べ 85 人	①介護人材の確保・育成 ②施設間の情報共有・連携強化	入所施設として全体的な基盤強化・安定運営が図られることで、各施設が地域における信頼たる社会資源として寄与するため ①人材不足の昨今において安定した施設運営のために、効果的な人材獲得・育成・定着のための検討が必要であるため ②市内施設での交流を促進し、情報共有・連携強化を図ること で、全体的な施設運営の底上げが可能となるため	

部会	H30年度検討内容			H31年度 検討内容		
	H30年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
グループホーム部会	1.地域の認知症をサポートする支援の取組について 2 各グループホームで困っていることについて	【検討内容】 1. 福祉センターまつり等に部会として参加した。 2. 在宅医療・介護連携推進の為に研修会にて、認知症についての研修会を全会向けに行った。 【結果・方向性など】 福祉まつりに参加することで、グループホームの場所や活動内容を地域の方々から知っていただく機会が増えた。しかし、グループホームがどのような施設で市内に何施設あるのか知らない人が大勢みえていたので、引き続き認知症を含めて、グループホームを知っていただくようにしていく。 グループホームでの問題点を共有できた。	会議：4回 参加人数 延べ 42人	1.地域の認知症をサポートする支援の取組について 2 各グループホームで困っていることについて	1福祉センターまつり等に部会として参加しているが、グループホームがどのような施設で市内に何施設あるのか知らない人が大勢みえていたので、引き続き認知症を含めて、グループホームを知っていただくようにしていく。 2各施設にて困っている事を部会に出しながら解決に向けて意見を出し合い、部会全体の知識及び質の向上を行っていきたい。	
保健福祉部会	8050の予防と介入	【検討内容】 地域住民と専門職の協働による8050の予防的早期介入の方法を探る中で、非常に困った状態になる前に相談機関につなげることが出来ないか検討した。チラシを作成し啓発できないか検討したが、8050問題に対応する機関や部署がはっきりと決まっていな中で、チラシを作成は時期尚早であると判断した。 そこで、相談を受け自分たちがその中心となって動き出した時、支援の助けになる連携先や、またどんなことをしてくれるのかを確認することで、支援する側の体制を整えることにした。その方法として、実際の事例の検討を4回行い、具体的な連携先の共有を図った。 【結果・方向性】 内部のマニュアルとして、具体的な支援の例と連携先の一覧表を作成した。今後は4回の事例検討では、明らかにならなかった連携先について実際の業務の中で見えてきた連携先を随時追加していく。また、連携先が実際にどんな対応ができるのかを、確認作業を進め、より実践力を高めることを目的として来年度の引き続き検討していく。	会議：17回 参加人数 延べ 312人	8050の予防と介入～実践力を高めるために～	平成30年度に検討した8050の予防と介入について、自分たちのマニュアルとなる一覧表を作成したが、連携先の追加や具体的な支援の確認作業が十分ではない。 そこで検討した内容を実際に活用するために、各機関との具体的な連携の方法・役割について当該機関と検討しながら、実践力を高めることを目的に検討していきたい。	